

現役「援デリ経営者」が語る業界のタブー
【“援デリ”解体新書】



著:江川 岳光

著作権について

【“援デリ”解体新書】PDF版(以下、「本レポート」と表記)は、著作権法で保護されている著作物です。

本レポートの使用に関しましては、以下の点にご注意ください。

- 本レポートの著作権は「江川 岳光」にあります。
- 「江川 岳光」の書面による事前許可無く、本レポートの一部または全部をあらゆるデータ蓄積手段(印刷物、電子ファイルなど)により、複製、流用および転売(オークション含む)することを禁じます。

本レポートを利用する際は、必ず下記の『使用許諾書』をご一読頂くようお願い申し上げます。

使用許諾契約書

本契約は、本レポートを購入した個人・法人(以下、甲と称す)とお名前(以下、乙と称す)との間で合意した契約です。

本レポートを甲が受け取り、パッケージを開封することにより、甲はこの契約に同意したことになります。

第1条 本契約の目的

乙が著作権を有する本レポートに含まれる情報を、本契約に基づき甲が非独占的に使用する権利を承諾するものです。

第2条 禁止事項

本レポートに含まれる情報は、著作権法によって保護されています。

甲は本レポートから得た情報を、乙の書面による事前許可を得ずして出版・講演活動および電子メディアによる配信等により一般公開することを禁じます。特に当ファイルを第三者に渡すことは厳しく禁じます。

甲は、自らの事業、所属する会社および 関連組織においてのみ本レポートに含まれる情報を
使用できるものとします。

第3条 契約の解除

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合には、乙は使用許諾契約書を解除することができ
るものとします。

第4条 損害賠償

甲が本契約の第2条に違反した場合、本契約の解除に関わらず、甲は乙に対し、その違約金
として、違約件数と販売価格を乗じたものの 20 倍の金額を支払うものとします。

第5条 責任の範囲

本レポートの情報の使用の一切の責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じた としても一
切の責任を負いません。

はじめに

2013年現在、出会い系サイトのサクラは絶滅の窮地に立たされている。

彼ら(彼女ら)は、『女の子と出会いたい!』という男性の欲望を逆手に取り、傍若無人な振る舞いを見せていた。

出会い系サイトはもちろんのこと、mixi や Facebook などの SNS サイトでの悪質な勧誘手法も目立った。

しかし、誇張表現を多用し、やりたい放題の宣伝方法がアダとなった。

今では多くの男性がサクラ、ひいては出会い系サイト自体に不信感を募らせ、“カモ”の確保が困難となってきている。

悪徳出会い系サイトに跋扈している彼ら(彼女ら)は、売上げが伸びずに低迷せざるを得ない。

もはや、出会い系サイトでサクラが幅を利かせる時代は終わりを告げた。

その代わりに勢力を伸ばしているのは、「出会えるサクラ」とも言うべき“援デリ”である。

援助交際とデリバリーを組み合わせる…そのビジネスアイデアにはある意味タフな商魂さえ垣間見える。

したたかな女の子、もしくは個人で援助交際をしている娘をスカウトし、援デリ業者は稼ぎ場を拡大しつつある。

客からすれば、援デリ嬢は個人で援助交際をしている女の子と見分けがつかない。

援助交際を隠れ蓑にし、客から利益を得るビジネス、それが“援助交際デリバリー”なのだ。

そんな援デリ業者の実態は、決して明るみに出ることはなく、闇に沈んだままであった。

7日3日、俺はとあるルートで援デリ経営者に接触した。

そしてインタビューを敢行し、生々しい秘匿情報を記録することができた。

このレポートを読めば、もうあなたは援デリ業者に引っかかることはない。

むしろ、『援デリを開業したい…』とさえ思うかもしれない。

経営者でしか知り得ない『援助交際デリバリーの真実』を、克明に書き記す。

目次

◆第1章◆ “援助交際デリバリー”とは？

- 1.1 援デリ経営者のプロフィール
- 1.2 援デリ業務の流れ
- 1.3 顧客情報の共有手段
- 1.4 援デリ嬢の相場
- 1.5 「即ホテル」を男性が受け入れる理由

◆第2章◆ 援デリを取り巻くコンテキスト

- 2.1 『サクラ』と『援デリ』の違い
- 2.2 芸能人を装うサクラの目的
- 2.3 『サクラ』と『援デリ』のポジション
- 2.4 援デリのプラットフォーム
- 2.5 2013年の出会い系サイト事情
- 2.6 従来 of サクラが潰れている原因
- 2.7 出会い系サイトに一般女性が少ない理由
- 2.8 援デリ業者と出会い系サイトの力関係

◆第3章◆ 援デリ業者のキャッシュフロー

- 3.1 『サクラ』と『援デリ』の収益
- 3.2 利益の分配率
- 3.3 援デリ業者の給与体系
- 3.4 援デリは儲かる！？

3.5 打ち子を本職にした場合

◆第4章◆ 援デリオフィスの実態

- 4.1 オフィスの所在地
- 4.2 キャストを待機させる理由
- 4.3 オフィスの雰囲気
- 4.4 業者のタイムスケジュール
- 4.5 打ち子とキャストによる待遇の違い
- 4.6 顧客管理システムの存在
- 4.7 “客”の判断基準
- 4.8 キャストの雇用手段

◆第5章◆ 客を落とす！援デリ業者の巧妙テクニック

- 5.1 出会い系サイトでのキャラ設定
- 5.2 狙う男性の特徴
- 5.3 メールをやり取りする回数
- 5.4 文章は相手によって変えるのか？
- 5.5 掲示板に書き込むタイミング
- 5.6 『サクラ』と思われない方法
- 5.7 『早く会いたい！』と思わせるコツ
- 5.8 援デリ業者の“殺し文句”
- 5.9 客が“落ちた”メール

◆第6章◆ “援デリ”スタートマニュアル

- 6.1 求人広告を打つ媒体
- 6.2 打ち子の面接方法
- 6.3 キャストの面接方法

- 6.4 応募者の職業や年齢層
- 6.5 研修期間はあるのか？
- 6.6 客を確保するまでの流れ
- 6.7 打ち子に向いている人とは？

◆第7章◆ “援デリ”コラム

- 7.1 援デリ業者が使う端末
- 7.2 援デリ業者がスマホを導入する可能性は？
- 7.3 援デリは犯罪か？
- 7.4 社会保険は完備しているのか？
- 7.5 セックス前提のやり取りは不審に思われないのか？
- 7.6 “NG客”の定義
- 7.7 援デリ嬢の生態
- 7.8 キャストが打ち子をするケース

◆第1章◆ “援助交際デリバリー”とは？

第1章では、『援デリの仕組み』について解説していく。

1. 援デリ経営者のプロフィール

俺がインタビューした相手は、26歳の某援デリ業者の男性経営者。

主な仕事内容は、『打ち子の育成・シフトの管理・市場調査・業務拡大・面接』などなど。

「収入は月に150万ほど」と言うから、開いた口が塞がらない。

現在は打ち子の実務をしなくても収入を得られる、不労所得のシステムを築いている。

もちろん、彼は最初から今の地位に就いていたわけではない。

だが、その腕は確かだった。

1番の下っ端から仕事を始めて、わずか1年足らずで経営者まで上り詰める。

現在はこの仕事から足を洗うことを考えており、「最後の仕事」として援デリの真実を暴露するに至った。

2. 援デリ業務の流れ

援デリ業者は、『打ち子』と『キャスト』の2種類の従業員で構成されている。

打ち子とはその名の通り、女の子に成りすましてメールを「打つ」バイトを指す。

彼らが多くの男性とやり取りをし、待ち合わせまでの約束を取り付ける。

キャストとは、実際に客と会ってセックスをする女の子を指す。

彼女たちが実際にメールのやり取りをすることはなく、ただただ打ち子が確保した客と会って行為に及ぶ。

【打ち子】

①出会い系サイトで男性とメールのやり取りをする。

- ②援助交際の約束を取り付ける。
- ③待ち合わせ場所まで男性を呼ぶ。

【キャスト】

- ①待ち合わせ場所で男性と会う。
 - ②ホテルに向かう。
 - ③セックスをする。
-

以上が基本的な流れであり、この繰り返しが援デリ業者の実務内容となる。

3. 顧客情報の共有手段

先ほど解説したように、『打ち子』と『キャスト』は全くの別人だ。

それを前提とするのなら、打ち子が客を確保した際には、キャストに相手の情報を伝えなければならぬ。

打ち子とキャストは、一体どのような手段で顧客情報を共有しているのだろうか？

実は打ち子が行った一連のやり取り、それを簡単にまとめたメールをキャストに送っている。

これは『詳細メール』と呼ばれるもので、そこには以下のような内容が書かれている。

【詳細メール】

サイト名：●●●
顧客アカウント名：佐藤
年齢：27歳
身長・体重：175cm・56kg
服装：アロハシャツ・ジーパン・灰色の靴・白のバッグ
待ち合わせ場所：●●の看板前
打ち子アカウント名：ゆか 22歳

【備考】

「割り切り希望」とメールが来ました。
昨日の夕方にメールのやり取りをし、今日会う約束を取り付けました。

たったこれだけのメールで、キャストは男性の元へと向かう。

詳細メールの割には不足と感ずるかもしれないが、伝えるべき内容は必ず備考欄に記載するよう教育されている。

キャストからすれば、相手の名前と“自分”の名前を覚えるだけである。

後はその場の流れで、客に対してキャストが話を合わせるのだ。

4. 援デリ嬢の相場

キャストの年齢や地域によって、それぞれの相場は変動する。

郊外や地方に比べれば、やはり都心のほうが相場は高くなる傾向にある。

あなたは「ホ別2」という言葉をご存知だろうか？

これは、援助交際の相場を表す代表的な隠語である。

『ホ別』はホテル代別ということ指し、『2』は単純に2万円を指す。

つまり、「ホテル代とは別に2万円でセックスする」という意味だ。

料金を提示するタイミングは打ち子によって異なるが、ほとんどの場合は最初のメールで切り出してしまう。

長々とメールをした後に料金を提示すると、交渉が決裂してしまった場合に痛い。

援デリ業者にとっては今までのやり取りが無駄になり、客を逃してしまうことになるからだ。

5. 「即ホテル」を男性が受け入れる理由

打ち子がメールをする際には、ホテルに行くことを前提として話を進めている。

それが嫌な男性は、最初に軽い食事や遊びなどを要求してくるが、それでは時間がかかって無駄が多くなるため、そのような誘いは全て断る。

断り方は、相手が納得さえすれば何でもいい。

たとえば、

「お腹空いてません」

「食事は家で済ませてきました」

「知り合いに見られたら恥ずかしいので」

など、キャストによって機転を利かせる。

また、実際に客が女の子と会ってからは、キャストが先導してホテルに向かうため、男性からす

れば断る隙もない。

女の子がドンドン歩いて行くのを見て、「ご飯でも食べない？」のように野暮なことを言える男性は少ないのだ。

援デリ嬢にとって、セックスの流れに水を差す『空気が読めない』男性は厄介な存在でもある。

◆第2章◆ 援デリを取り巻くコンテクスト

第2章では、『援デリビジネスが成り立つ背景』について解説していく。

1. 『サクラ』と『援デリ』の違い

出会い系サイトの『サクラ』に対して、あなたはどんなイメージを抱いているだろうか？

世間では、「男性とメールしてポイントを使わせる」という回答が一般的だ。

言うまでもなく、決して良いイメージは持たれていない。

このように、サクラは「男性が女の子を演じる」ことを想像する人は多いが、実際には「男性が芸能人を演じる」場合もある。

広く知られている人物の名を騙り、あたかも本人とメールをしているかのように錯覚させるのだ。

“援助交際デリバリー”については第1章で解説したが、出会えないサクラとは異なり、援デリは本当に女の子と出会えてしまう。

「サクラは出会えない、援デリは出会える」

これが両者の決定的な違いだ。

2. 芸能人を装うサクラの目的

あなたには、芸能人を名乗った迷惑メールが送られてきたことはないだろうか？

もしくは、好きな芸能人の名前を検索してクリックしたサイトに、たまたま出会い系サイトへのリンクがあったとしたら…？

知らず知らずのうちに、あなたは詐欺出会い系サイトへ足を踏み入れることになる。

そこから先は、芸能人を名乗るサクラとのメールに引きずり込まれてしまうのだ。

あなたの好きな芸能人と連絡を取り合えることを、考えてもみて欲しい。

「自分のためだけに時間を作ってくれているのかも…」「そのままホテルに行けるかも…」

『もしかしたら…』

そう考えさせることがサクラの仕事だ。

夢を見ている間は、冷静に物事を判断することが難しくなってしまう。

彼ら(彼女ら)は、そのような心の隙を突いてくるというワケだ。

3. 『サクラ』と『援デリ』のポジション

サクラは出会い系サイトの運営側が雇ったアルバイト、援デリは出会い系サイトを利用している業者。

基本的には、この解釈で間違いない。

例外としては、援デリ業者が出会い系サイトを運営し、客にキャストを派遣するというケースもある。

つまり、援デリ業者自らが出会い系サイトを立ち上げてしまうのだ。

しかし、大手の出会い系サイトを媒体とする援デリでも、十分な利益が得られてしまう。

「そのような面倒なことに金と時間をかける業者は聞いたことがない」と援デリ経営者は言う。

4. 援デリのプラットフォーム

援デリ業者が利益を得るためには、援助交際を希望する男性が必要不可欠だ。

彼ら(彼女ら)は一体どのような場所で客を探しているのだろうか？

やはりと言うべきか、大手の出会い系サイトを集客の場として利用している。

その理由はもちろん、非常に多くの男性会員が登録しているからだ。

業者自ら出会い系サイトを立ち上げて客を囲ったほうが、ポイントの回収ができるし、援デリの稼ぎも得られるため、利益としては大きいだろう。

だが、非常に多くの時間と労力を費やすため、実践している業者はほとんどいない。

また、出会い系サイトごとに平均年齢のバラつきがある。

これに気付いて対策をしっかりと取れる従業員が、稼げる打ち子へと成長していく。

たとえば、老舗の出会い系サイトは年齢層が高めであったり、料金の安いサイトでは年齢層が低めだったりする。

この傾向を柔軟にキャッチし、自身のキャラに合ったやり取りをしていけば、楽に稼ぐことができる。

援デリ経営者も主に大手の出会い系サイトを利用しているが、LINE 掲示板を使って集客することもある。

LINE を利用して援デリを行っている業者は少ないものの、確かに存在している。

しかし、男性側が無料となると、メールに費やす時間が長くなってしまったり、やり取りが終わらなくなってしまうことも多い。

そのため、ほとんどの援デリ業者は、効率を重視して大手の出会い系サイトを使っている。

5. 2013 年の出会い系サイト事情

近年は悪質な詐欺出会い系サイトが飽和状態となり、どこもかしこも潰されつつある。

もちろん、その全てが消滅することはないが、全盛期のようにほぼ全てのサイトにサクラが蔓延しているわけではない。

その代わりに勢力を伸ばしているのが、本当に出会える“援助交際デリバリー”というワケだ。

援デリ業者からすれば、サクラに対して「会えない」「話を引き伸ばされる」という強いイメージを持っている男性ほどよく釣れるという。

現在横行しているのは、知識の無い男性が多い“新種のサクラ”なのだ。

実態を知らなければ、引っかかってしまうのは自然な流れ。

本レポートでは『援デリの見破り方』も解説しているので、ぜひ熟読してほしい。

6. 従来のサクラが潰れている原因

簡単に言えば、需要が無くなってきているからだ。

つまり、「引っかかる男性が減少している」ことが大きな要因である。

本当に会える“援デリ”が主流になりつつあるため、会えずに金だけを吸い取られるサクラが潰れるのは当たり前の話。

中には何百万円という巨額の被害に遭っている人もおり、警察の摘発も厳しくなっている。

会えないサクラは完全なる詐欺だが、会えるサクラの場合は違法ではあるものの、いちおうの

売買春を成立させている。

そのため、「グレーゾーン」と認識されているのが現状なのだ。

7. 出会い系サイトに一般女性が少ない理由

基本的に一般の女性は、出会い系サイトに対して「怪しい」「危ない」「怖い」というイメージを持っている。

ただでさえ『出会い系サイト = サクラ』という価値観が染み付いているのにも関わらず、わざわざ出会い系に登録する女性は中々いない。

だがいつの時代でも、出会いを求めている男女がいることは確かだ。

近年における一般女性のブームは、ズバリ『婚活パーティ』である。

その響きも出会い系とは異なり、純粹で華やかなイメージがある。

「本気で結婚を考えている男女が集まる場所」という認識や心理も相まって、爆発的な人気を誇っている。

何よりもメディアの推しが強く、一般女性が出会い系よりも婚活パーティーに流れるのは当然の結果だ。

8. 援デリ業者と出会い系サイトの力関係

まず前提として、いわゆる『優良出会い系サイト』に登録している女の子は、そのほとんどが援デリ業者だ。

実際に援デリ経営者が、男性登録をして内情を調査したので間違いはない。

つまり、大手の出会い系サイトが援デリ業者を排除してしまうと、女性会員がほとんどいなくなってしまうのだ。

そうなると当然、「ポイントを購入してメールをやり取りする」という有料出会い系サイト本来のシステムは成り立たない。

ポイント料金の収入が途絶えると、出会い系サイト側の利益が激減してしまうのは自明の理。

援デリ業者とはいえ、あくまでも出会い系サイトにとっては“客”なのだ。

だからこそ、大手の出会い系サイトは援デリ業者を駆逐することができない。

会員から要望があったとしても、「援デリ業者を排除できない」というジレンマがここにある。

◆第3章◆ 援デリ業者のキャッシュフロー

第3章では、『援デリ業者の金の流れ』について解説していく。

1. 『サクラ』と『援デリ』の収益

サクラの場合は、詐欺出会い系サイトでの課金や振込みによって収益を上げている業者がほとんど。

「必ず会える」と言って客に強い期待を持たせ、何十通ものメールをやり取りする。

このメールに対して『1通 = ●●円』と相場が決まっており、それがそのまま収益となるのだ。

援デリの場合は、「セックスするから●●円下さい」と先に金額を提示する。

料金は振込み形式ではなく、実際に女の子と会ってからの手渡しとなるため、客からすれば安心感がある。

その時点で、相手が援デリ嬢だと気付く男性はかなり少ない。

援デリは実際に女の子と会えるし、さらにセックスもできる。

悪質なサクラによって、会えずに金を搾り取られていた人からすれば、これほど嬉しいことはないだろう。

2. 利益の分配率

たとえば「ホ別2」の場合、キャストに1万円を渡し、残りの1万円を業者と打ち子が分ける。

打ち子の給料は業者によって様々だが、1本(援デリ嬢を派遣した回数)2,000円～4,000円が平均的な相場だ。

つまり、『料金 - キャストの給料 - 打ち子の給料 = 業者の利益』となる。

3. 援デリ業者の給与体系

給与体系は、援デリ業者ごとに様々なシステムが築かれている。

売り上げ単価にもよるし、月間の売り上げが影響してくる業者も多い。

『日払い・週払い・月払い』によっても、給与は微妙に変化する。

かの援デリ経営者は、時給計算と日払い(成果報酬)の両方を経験しているそうだ。

おススメは一概には言えないが、自信があるのなら成果報酬が良いだろう。

なんとと言っても1日のノルマに上限が無く、日給10万円を稼ぐことも夢ではない。

逆に日給0円になる可能性もあるため、やはり経験者や自信のある人に適する給与体系と言える。

時給計算であれば、自分がそれほど仕事をできなくとも、同僚が利益を上げてくれればある程度は保証される。

そのため、まずは時給制で試してみるのが王道だ。

もちろん昇給制度もあり、成果を上げ続けることができれば、安定して大きく稼ぐことができる。

4. 援デリは儲かる！？

《時給制》

1日10時間労働で、週6日出勤とする。

援デリ業者のスタート時給は、1,200円が平均的な相場だ。

これを前提にすると、1ヶ月に288,800円が手取りで貰える計算になる。

時給は売り上げや勤続年数などによって昇給するため、月に50万円以上稼ぐことも可能だ。

《成果報酬型》

文字どおり成果報酬のため、「1日に●●円稼げる」という保証は無い。

前項で述べたように、日給0円の可能性もあるし、逆に1日で10万円以上を稼ぐことも夢ではない。

かの援デリ経営者の場合は、未経験で入った初月の稼ぎは35万円ほどだった。

現在ではそれほど仕事をしなくとも、月に150万円を稼ぎ出している。

5. 打ち子を本職にした場合

打ち子のプロフェッショナルにもなると、給与や待遇面では一体どうなるのだろうか？

「プロ」と呼ばれるラインは厳密に定められていないが、1日5本以上コンスタントに客を確保できれば十分にプロと言える。

そうすれば月に50万円以上は稼げるし、援デリ業者の実務にも慣れているため、仕事自体を簡単にこなせるようになっている。

ちなみに援デリ経営者は、1日で最高13本を記録したことがあるそうだ。

「1日で一般サラリーマンの半月分の給料を手にした」と言うから驚きである。

技術の面で言えば、客からの無理な要求(撮影・SMプレイなど)に対して軽く受け流すことができれば、効率の良い仕事ができる。

無理難題を突きつけてくる客に対しては、最初の頃こそあれこれとメールのやり取りをするが、慣れてくれば1通のメールで押さえつけることも可能。

つまり打ち子は、“見込み客を見極める力”が必要になってくるのだ。

待遇に関しては業者にもよるが、1本の給料単価アップや、打ち子を育てる立場ならボーナスも発生する。

援デリ経営者にもなると、月に100万円以上を稼ぐことも夢ではない。

◆第4章◆ 援デリオフィスの実態

第4章では、『援デリ事務所の内情』について解説していく。

1. オフィスの所在地

援デリ業者の事務所は、ほとんどの主要都市に点在している。

その中でも、『池袋・新宿・渋谷』は援デリのメッカだ。

主要都市と言っても、ホテルの数が少なければ話にならない。

援デリ経営者も、事業拡大のために色々なホテルを周りながら市場調査をしているが、大小あれど必ず業者がいるという。

さらに細かい場所としては、ホテル街の近くにオフィスを構えている場合が多い。

山手線沿線や郊外だとしても、ホテルの多く密集している場所があれば、そこにも援デリのオフィスがあると思って間違いない。

その理由は、事務所をキャストの待機場所として兼用している業者もあるためだ。

事務所にキャストを待機させておけば、客とホテル街で待ち合わせした後、そのまますぐホテルに入ることができる。

援デリ業者としても、そのほうが効率が良い。

また、キャストの待機場所には、カラオケやネカフェを使っている業者もある。

この場合も、そのような娯楽施設の立地はホテル街の近くであることがほとんどだ。

オフィス自体は駅に近い場所である必要はなく、まさに至る所に在ると言える。

2. キャストを待機させる理由

キャストを待機させるのは、打ち子がアポを取り付ける予定の客がいる場合だけだろうか？

それとも、待機させる必要があるほどキャストは忙しいのだろうか？

上記の2点を援デリ経営者に質問した。

キャストに待機場所を設けている業者は、実に様々な理由から成っている。

たとえば、キャストが一緒にいることによって、客が到着した場合はすぐに派遣することができる。

別の場所で待機している場合は、メールや電話で逐一指示を出さなければならない。

また、キャストを直接確認できない状況だと、彼女たちの「精神的・肉体的」な疲労の度合いも判断できなくなる。

無理をさせ過ぎて倒れられたら死活問題となるため、キャストの機嫌を取ることも経営者の仕事の1つなのだ。

3. オフィスの雰囲気

これは一概には言えないが、規律やルールをきちんと定めている援デリ業者は長続きしている。

だらだらと『楽な仕事』なんて考えている業者は収益が上がらず、競争に負けてすぐに潰れていく。

かの援デリ経営者の職場はみな和気藹々としているが、締める所はしっかりと締めていたため、全体の稼ぎも大きかった。

「やる時はやる。抜く時は抜く」

このように、仕事と遊びにメリハリのある業者が残り続けているのだろう。

打ち子の場合は、毎日何時間も携帯を操作してメールをしなければならず、嫌になる事はしょっちゅうある。

そんな時は、コンビニへ買い物に出かけての気分転換を勧めるそうだ。

陰鬱な気分でもメールをしても、それが客に伝わってしまい、アポを取り付けられる可能性はガクンと下がる。

気分転換をして心身ともにリフレッシュしてもらったほうが、援デリ業務も良い結果になるのだ。

4. 業者のタイムスケジュール

《サクラの日程》

彼ら(彼女ら)の場合は24時間営業のオフィスが多いため、その中でシフトを組んでいる。

従業員には、最低でも10時間以上の労働を課す。

朝に出勤(昼番)して、夜中まで仕事をしていた従業員(夜番)から引継ぎを受けて業務を開始する。

芸能人を装うサクラの場合は、名を騙る人物のスケジュール把握から始めて、多くの顧客にメールを送信していく。

その作業を昼番が夜まで行い、夜番と引継ぎをする。

以上がサクラの1日の流れとなる。

《援デリ業者の日程》

援デリ業者の場合は、昼の12時から営業を開始するオフィスが多い。

基本的にはサクラと同様の10時間労働を掲げており、22時に営業を終了する。

中には深夜営業の業者や、24時間営業の業者もいるようだが、そのような話はほとんど聞かないためまだまだ少ない。

5. 打ち子とキャストによる待遇の違い

実際のところ、「給与面での違いしかない」と言っても差し支えはない。

しかし、キャストのほうが心身ともに負担のかかる仕事であるため、打ち子がキャストに配慮している職場が多い。

これができない援デリ業者はキャストがドンドン辞めていき、潰れるのも早い。

具体的な配慮点としては、先ほども述べたように、キャストが「精神的・肉体的」に消費している場合。

キャストの表情が曇っていたり、露骨に愚痴を言ったり、中には怒鳴り散らす女の子もいる。

ハードワークである以上、仕方のないことだが、それを事務所でされると他の従業員にも影響が出てしまう。

だからこそ、そうなる前に吐き出してもらうことが重要なのだ。

普段から従業員の表情をしっかりと見ていれば、多少の変化にも気付くことができる。

そんな時はキャストや打ち子関係なく、一緒にご飯を食べに行ったり、飲みに行ったりするとう。

6. 顧客管理システムの存在

援デリ業者は多くの男性を相手にすることになるが、顧客を管理するシステムのようなものはあるのだろうか？

また、見込み客との進捗状況はオフィス内で共有されているのだろうか？

上記の2点を援デリ経営者に質問した。

「顧客を具体的に管理するシステムは確立されていないが、1日の予約状況は誰が見ても分かるように大きく紙に書いたり、ホワイトボードに書いたりして皆で共有はしている」とのこと。

なるほど、キャストの人数は限られているため、同じ時間帯に客が被らないように対策を講じているワケだ。

その他には、一度援助交際した客をPCでリスト化している業者も多い。

これは、援デリ業者だとバレないようにするための予防策。

たとえば、新たなアカウントで確保した客に対して、また同じキャストを派遣しては怪しまれてしまう。

顧客管理システムは存在しないが、最低限の予防策は確立されているのだ。

7. “客”の判断基準

これは単純に、男性とやり取りをしていれば分かる。

-
- ・人の質問に答えられない。
 - ・自分の要求しか言っていない。
 - ・会いたいのではなく、メールを楽しみたい。
-

このような男性とのやり取りは無駄であるため、効率を重視して早い段階で切る。

慣れと感覚がモノを言うのだが、普通の会話ができない男性は意外にも多い。

8. キャストの雇用手段

かの援デリ経営者は、スカウトマンからの紹介で女の子を雇っている。

新宿の歌舞伎町に行けば、多くのスカウトマンと仲良くなることができる。

彼ら(彼女ら)から、風俗の仕事をしている女の子、もしくは風俗業界に興味がある女の子を紹介してもらうのだ。

ただし、間違っても自ら風俗店の女の子を勧誘してはいけない。

これがバレた時はどうなるか…想像しただけでも嫌になってしまう(笑)

それでは、スカウトマンと懇意な間柄になるためにはどうすれば良いのだろうか？

実はそれほど難しいことではなく、夜中に歌舞伎町をフラフラと歩いていれば声をかけられる。

もちろん、キャバクラや風俗店へのお誘いである(笑)

紹介した女の子が稼げば稼ぐほどマージンが入るため、スカウトをしている人もいる。

キャバクラや風俗店で遊んだ際に「女の子を紹介して欲しい」と声をかければ、後は流れに任せて簡単にキャストを確保することができる。

最初から「紹介して欲しい」と言うのではなく、一度店で遊んでから「紹介して欲しい」と切り出すのが重要ポイント。

スカウトマンからすれば、利益になるかどうかの確証も無く、赤の他人に「女の子を紹介しろ」なんて言われてもいい気はしない。

店で遊んだ後であれば、『稼ぎのいい業者』だと思わせることができ、交渉もスムーズに進む。

◆第5章◆ 客を落とす！援デリ業者の巧妙テクニック

第5章では、『客から金を引き出す援デリ業者のテクニック』を解説していく。

1. 出会い系サイトでのキャラ設定

かの援デリ経営者は、打ち子の性格によって、わざとキャラクターにバラつきを持たせている。

似たり寄ったりのキャラでは客の取り合いになるため、実際にメールのやり取りをしていて無理のないキャラ作りを勧めている。

打ち子に合わないキャラでメールをしていても、いつかはボロが出るし、疲れが溜まるだけだからだ。

援デリ経営者の打ち子時代は携帯を2台使っており、それぞれ全く別のキャラ作りをしていた。

たとえば、1台は丁寧な喋り方をするキャラ、これは誠実な客を多く確保することができる。

もう1台はタメ口で接する気さくなキャラ、男性からすれば気楽なため、テンションの高い客を多く確保することができる。

また、「キャラ設定に合わせたキャストを派遣する」ということは一切していない。

援デリ経営者は、型破りな考え方をしているのだ。

分かりやすい点で言えば、女の子のプロフィールの『髪型 = セミロング』なら業者を疑うべき。

なぜなら、どの髪の長さのキャストを派遣しても、「長くなったんだ♪」「短く切ってみたの♪」などと言えば、いくらでも言い逃れができるからだ。

つまり、あらゆる言い訳のできるプロフィールこそ、援デリ業者のアカウントというワケだ。

2. 狙う男性の特徴

援デリ業者は、『コンプレックスを抱えている男性』を重点的に狙う。

具体例を挙げると、“童貞”だということを周囲には言えないが、『早く卒業したい』と考えている男性。

「周囲には言えない」からこそ、匿名で欲望を発散できる場として、出会い系サイトを利用している

のだ。

「早く童貞を卒業したいから、お金を払ってでもセックスしたい…」

「でも、風俗嬢とかのプロは嫌だ…」

そう考えている男性であれば、援デリ業者が完全に主導権を握れるために優良顧客と言える。

後は太っていたり、セックスの経験が少ないことを気にしている男性は“カモ”になりやすい。

3. メールをやり取りする回数

援デリ業者は、何通のメールで決着をつけるのだろうか？

また、「●通以内にアポを取り付けられなければ切る」というボーダーラインはあるのだろうか？

上記の2点を援デリ経営者に質問した。

基本的には、『10通以上のやり取りは無駄』と判断している。

「打ち子が10通メールを送る」という意味だが、それまでにアポを取り付けられない場合は、打ち子にセンスが無いか、ただメールを楽しみたい男性である可能性が高い。

打ち子によっては、3通のやり取りで決着がついたこともある。

その内容は以下だ。

-
- ①目的の確認・金額の提示
 - ②待ち合わせ場所の指定
 - ③服装の確認・待ち合わせ場所への到着確認
 - ④合流
-

これはあくまでも最短ルート、全てがこのように上手くいくとは限らない。

援デリ経営者は新人教育の段階で、「できるだけ短いやり取りで決着をつけろ」という話しをしている。

すぐにケリをつけるためには、始めから「援助交際」だと言ってしまったほうが良い。

長々とメールをやり取りした後に「援助交際」を切り出すと、音信不通になることが多いためだ。

そんなことをしては時間の無駄だし、何よりも効率が悪い。

だからこそ、最初に勝負をかけるのだ。

「援助交際」というキーワードを出さずに納得させるのがポイント。

言い方を工夫すれば、「援助交際はお断りします！」と言ってきた男性でも会うことは可能。

要するに、打ち子の言い回しが重要というワケだ。

4. 文章は相手によって変えるのか？

援デリ業者は、「客に合わせて大きく文章を変える」ということはしない。

相手が打ち子キャラの年齢より年下であればタメ口、逆に年上であれば敬語を使う。

基本的なことだが、こうしておけば相手に悪印象を与えることは無い。

また、相手が年上でもコンプレックスを抱えていたり、下手に出てきた場合。

彼らに対する上級テクニックとしては、こちらがタメ口にすれば与える印象は柔らかいものになる。

テンションの高いメールをしてくる人に対しては、テンションを合わせれば話がスムーズに進みやすい。

いずれにしろ、相手のメールの節々に見え隠れする性格を、いかに1通目で見抜けるかどうかポイントだ。

こればかりは打ち子のセンスが問われるが、注意深く観察しつつ経験を積めば、誰でも見抜けるようになる。

5. 掲示板に書き込むタイミング

学生やサラリーマンなど、狙うターゲットによって微妙に変わってくる。

たとえばサラリーマンを狙うのなら、出勤時間である8時～9時は、電車の中で携帯をポチポチと操作している。

その時間を狙って掲示板に投稿する。

お昼休憩の12時に投稿する。

定時の18時過ぎに投稿する。

このポイントを抑えているだけで、多くの男性に見られるために効率が良い。

また、寝る前に携帯をいじっている人も多くいるため、深夜に投稿するのも吉。

自分が暇になった時間帯は、他人も暇になっている時間帯なのだ。

6. 『サクラ』と思われない方法

まず、あなたが考える『サクラ』とは何だろうか？

冒頭でも述べたように、メールを無駄に長引かせる相手は疑わないだろうか？

そのためにも、サクラの特徴と合致させないことが肝要。

つまり、メールのやり取りを短く抑え、「確実に会える」と思わせれば良いのだ。

世間一般的なイメージの『サクラ』と逆のことをしているだけ。

本当に会えてしまうのだから、具体的な会う約束を、友達のような感覚で取り付けられればいいだけだ。

7. 『早く会いたい！』と思わせるコツ

とにかくこちらも、『あなたに会いたい！』と思わせることだ。

本レポートの読者も、女の子に「早く会いたい」と言われたら、学校やバイト、仕事などを早く切り上げて『会いたい』と思わないだろうか？

誰もそんなことを言われたら、たとえお世辞だったとしても嬉しいもの。

相手にそう思わせることができれば、あとは援デリ業者のペースに引き込める。

男性は従順になっているためトラブルは少なく、優良顧客としても成長を遂げる。

8. 援デリ業者の“殺し文句”

「この文章で客は落ちる！」

そんな援デリ業者の殺し文句も存在する。

それはすなわち、メールの“鉄板テンプレート”である。

もちろん援デリ経営者はそれを持っているが、「全く同じ文章を教えるわけにはいかない」と拒

否されてしまった。

まあ、至極当然のことだろう。

彼がその文章を使って何百万と稼いできたのなら、なおさら公開できるはずもない。

粘り強い交渉の結果、そのヒントだけは教えてもらうことができた。

ズバリ、相手のウィークポイントを握ることだ。

たとえば、童貞がコンプレックスの場合、女の子から「セックスを教えてあげる☆」と言われてたら喜んで会いたいと思うだろう。

また、太っていることがコンプレックスの場合、女の子に「ぽっちゃりさんは抱き心地がいいから好き♪」なんて言われたらどうだろうか。

相手の“嬉しい一言”を見抜くことができれば、それが鉄板のテンプレートになるのだ。

9. 客が“落ちた”メール

人によって様々だが、一番分かりやすい内容がある。

やり取りをしている中で、「早く●●さんに会いたいです！」というメールが来ることだ(笑)

「●●さん」と打ち子キャラの名前が入っていることがポイント。

「『早く会いたい』って、間違いなく落ちてるでしょ！」

こんな声が聞こえてくるようだが、所詮メールだけのやり取りであるため、そんなことはいくらでも言えてしまう。

わざわざ名前を入れてメールをしってくる相手は、丁寧で誠実な性格の人が多く、できる限り約束を守ろうとする。

言うまでもなく、援デリ業者にとっては優良顧客である。

その他は、援助交際の話早く決めようとしてくる人。

出会い系サイトのポイントを抑えようとする人もいるが、そこは打ち子の見極めが重要になってくる。

いずれにしろ、早くアポを取り付けようとしてくる人ほど、『会いたい』と思っていることは間違いない。

ちなみに、顧客は“カモ”としてリストに載るわけではない。

客が一度援デリ業者に引っかかると、次回から慎重になったり、サイトを退会してしまう可能性が高い。

基本的に客とキャストは「一期一会」なのだ。

◆第6章◆ “援デリ”スタートマニュアル

第6章では、『援デリで働く際の知識』を提供していく。

もちろん、俺は決して援デリ業はおススメしない(笑)

1. 求人広告を打つ媒体

『[ドカント](#)』を始めとする、一般の求人情報誌に掲載されていることが多い。

『PCオペレーター = サクラ・打ち子』という方程式が成り立つほど、常に関連する求人情報で溢れている。

見分け方としては、極端に給料が高かったらサクラや打ち子、妥当な給料であれば本物のPCオペレーターとしか言いようがない。

実際に、「面接に行ったらサクラだった」なんて話も多く聞く。

かの援デリ経営者も、ドカントで“PCオペレーター”という名目で求人広告を出していた。

少し話は反れるが、「バーで仕事しませんか？」のような求人を見て面接に行ってみると、「その募集はもう終わってるんだよね。代わりにこんな仕事あるけどどう？」とサクラや高級風俗店のスタッフへと誘導する業者も存在する。

2. 打ち子の面接方法

基本的には、ネットや求人情報誌からの応募が多い。

『PCオペレーター』という名目で広告を出しているが、まず応募者に対しては打ち子だという説明から始める。

援デリ経営者は面接官もしていたのだが、人を見るポイントはいくつかあった。

【5つの面接ポイント】

①履歴書

各項目をきちんと埋めているかどうかを見る。

中には空欄だらけの履歴書を持ってくる人もいる。

②退職理由

退職を何度していても問題はないが、「上司と合わないから」という理由で退職した人は、働き始めてもすぐに辞める可能性が高い。

③清潔感

服のセンスやファッションではなく、身体的なもの。

清潔感が無い人とは、『一緒に働きたくない』と思うのが当然だ。

④やる気

援デリに限らず、やる気は仕事をする上で必須。

⑤受け答え

客とメールのやり取りができるかどうかを見る。

上記の中でも最重要ポイントは“受け答え”である。

「そんなの当然だろ」と思うかもしれないが、求人情報誌を見て応募してくる人の大半は、なぜかコミュニケーション能力に乏しい。

面接官の質問の意図がわからずに見当違いの答えを出したり、目を見て話さないこともザラだ。

何を喋っているのか分からない人は、やる気や能力の問題以前に不採用とされる。

3. キャストの面接方法

基本的にキャストは、スカウトマンからの紹介で採用している。

元々は風俗で働いていた女の子が、『もっと稼ぎたい!』と考えて応募してくることが多い。

キャストの面接はいたってシンプル。

まずは、援デリ業務の流れを説明する。

それに対して了承があれば、可能なプレイ内容(ゴムあり・生 OK など)の確認をして、源氏名を決めて終わりだ。

後は実際の現場で覚えてもらうほうが早い。

4. 応募者の職業や年齢層

援デリの応募者たちは実に様々だが、時期によっては若い人が多くなったり、30代以上の人が多くなったりする。

実際に援デリ経営者が面接をした印象では、ほとんどが20代～30代だったようだ。

むしろ、20代以下や40代以上の年齢であれば、電話の時点で断っていたとのこと。

20歳以下は未成年のため論外、30歳以上でも頭の固い人が多く、自己主張だけをして馴染めずに辞めていく人が続出した。

そのため、援デリ業者の視点としては20代が理想。

週に6日以上の出勤を採用条件としているため、職業は大半が無職、たまにバンドマンもいた。

その他はサクラの経験者が、流れに任せて援デリ業界に入ってくることも多かった。

5. 研修期間はあるのか？

結論から言うと、打ち子は研修アリ、キャストは研修ナシ。

打ち子の場合は、まず出会い系サイトの登録作業から始めてもらう。

この作業ができなければ、援デリ業務は不可能だ。

登録作業といっても決して簡単ではなく、自分なりのキャラクターを作って、架空の女の子を演じる必要がある。

実際問題として、ここで多くの打ち子が苦戦する。

また、掲示板の投稿内容の確認や、出会い系サイトごとの細かいシステムの仕様についても覚えてもらう。

これは難しいように聞こえるが、一旦始めてしまえば時間と共に慣れていく。

従業員によっては、すぐにマスターしてしまうこともある。

キャストの場合は、プレイ可能な内容(ゴムあり・生OKなど)を確認後、すぐに実際の現場へ送り出す。

文字どおり、“身体で覚えさせる”というワケだ。

6. 客を確保するまでの流れ

まず出会い系サイトを介して、すぐに会える男性の探索を行う。

利用したことのある人は分かるだろうが、アダルト掲示板の「今すぐ」「すぐ会いたい」などのカテゴリーで募集をかける。

その書き込みに釣られ、メールを送信してきた男性に対して打ち子がやり取りをするのだ。

【打ち子の実務内容】

①会う目的の伝達

もちろん、男性には「援助交際」という旨のメールを送る。

②援助交際の料金の提示

男性から貰う金額のことだ。

③日時の伝達

援デリ業者の営業時間内で指定する。

④待ち合わせ場所の伝達

援デリ業者が指定する。

⑤服装のチェック

キャストを派遣した際に、客と合流するための情報を聞き出す。

⑥待ち合わせ場所への到着確認

実際に男性が待ち合わせ場所にいることを確認したら、キャストと合流させる。

イタズラの可能性もあるため、男性が待ち合わせ場所に到着したことを確認してからキャストを派遣する。

⑦客とキャストの合流確認

客とキャストが合流したことを事務所に伝える。

ホテル内でのやり取りはキャストに委任する。

これで打ち子の仕事は終わりだ。

つまり、男性とのメールのやり取りは全て打ち子が行うということ。

打ち子とキャストで役割分担をしたほうが、最も効率が良い。

7. 打ち子に向いている人とは？

こればかりは、個々のセンスに大きく左右される。

女の子としてメールをするため、ある程度の経験がモノを言う仕事でもあるからだ。

適する適さない以前の問題として、客とのメールのやり取りができるかどうかも重要。

「何言ってるの？当たり前じゃん」

そう思うかもしれないが、打ち子の応募者は個性的な人物ばかりで、客の要望に対して的外れな返答をする人も多い。

このような打ち子はアポを取り付けられるはずもなく、給与を貰えないために辞めていく。

ボーダーラインとしては、しっかり受け答えできる人に適する仕事と言える。

援デリ経営者が、受け答えを最重要ポイントとして見ているのもそのためだ。

◆第7章◆ “援デリ”コラム

第7章では、『援デリの裏話』を紹介していこう。

1. 援デリ業者が使う端末

実際に彼ら(彼女ら)が使っている端末を暴露すると特定される危険性があるため、援デリ経営者が従業員に何を勧めているかを紹介する。

まず「サクラ」と聞くとPCを想像する人は多いが、実際には携帯電話でやり取りが行われている。

援デリ経営者はその中でも、ガラケー(ガラパゴス携帯)の使用を推薦している。

スマートフォンの場合は打ち間違いが多くなり、ガラケーに比べると通信速度がかなり遅い。

ガラケーであれば、処理する情報量が少なくレスポンスも速い。

その分、客とスムーズにやり取りすることができるのだ。

援デリに限らず、ビジネスでは見込み客の確保が最優先事項。

だからこそ、援デリ経営者は携帯を主力の端末に定めている。

2. 援デリ業者がスマホを導入する可能性は？

これは完全に援デリ経営者の考えとなる。

彼は「できるだけ対応しようとは思いますが、新しい物に手を出すほど現在のシステムを最大限に使いこなせている部下は少ない。まだすぐには援デリ業者に対応しないのではないだろうか」と言う。

スマホは通信速度や動作の重さなどの問題から、援デリ業者には向いていない。

そのため、「援デリ業者のスマホへの移行は難しい」という現状がある。

だが絶対に不可能というわけではなく、援デリ経営者は徐々に導入を検討しているとのこと。

実際に彼がLINEを利用した援デリを試してみたところ、業者が少ないぶん集客をしやすいということが判明した。

その事実気付いた援デリ業者たちは、もしかすると新境地に足を踏み入れるかもしれない。

3. 援デリは犯罪か？

「援助交際デリバリーは犯罪として成立しているの？」

この質問に対する答えは“NO”だ。

「売春防止法に引っかかるんじゃない？」

そう思われた人もいるかもしれないが、実際には売春側よりも買春側のほうが罪が重い。

実際に女の子とセックスをして、金銭の受け渡しがあったとしても、ほとんどの場合は立件されない。

援デリにおいては、罪(買春)を犯している男性からの告発がない限り、犯罪として成立しないのだ。

管理売春の罪はあるのだが、女の子が1人で行っていた場合はただの売春であり、言い逃れはいくらでもすることができる。

援デリが犯罪になるか否かは、ケースバイケースなのだ。

4. 社会保険は完備しているのか？

会社として登記しているのであれば、正規のデリバリーヘルスと何ら変わりはない。

だが無許可で女の子のデリバリーを行っているのが援デリであり、その分リスクと給料が高い。

もちろん、社会保険は完備していない。

それを知って働いている従業員がほとんどで、イリーガルな風俗店も社会保険を完備していない。

援デリは、まさにハイリスクハイリターンの仕事なのだ。

5. セックス前提のやり取りは不審に思われぬのか？

打ち子による掲示板への書き込みやファーストメールは、そもそもセックス前提の内容であり不審に思われることは少ない。

もちろん、「初めて会う女の子とすぐにホテルへ行ってセックスする」という流れを嫌がる人もい

る。

そのような男性は、会うやいなや「まずはお茶でもしながら…」と言ってくる。

彼らに対しては、キャストが「男らしくないね(笑)」と一喝することもある。

断る理由は、相手が納得すれば何でもいい。

即セックスに腰が引けて、言い訳ばかりをする客とやり取りしていても時間の無駄だ。

援デリ業者にとっては、見込みの無い客を相手にするよりも、新規客を捕まえたほうが効率が良い。

6. “NG 客”の定義

基本的に NG 客のラインは、業者や個人による差は生じない。

出会い系サイトを「特殊な性欲の捌け口」として利用している男女は多い。

普段なら言えないようなことを、不特定多数の異性に対して曝け出せるからだ。

その一方で、性欲を抑えきれない人々も存在する。

「生で中に出したい」「ゴム苦手だから生でやらせてくれ」など、女の子の事情を一切気にせず、欲望のままに行動する男性諸君のことだ。

キャストによってはピルを服用しており、生 OK な女の子もいるが、その場合は金額がプラスされる。

その他は、SM プレイを希望する男性。

「縛ってみたい」などと言われても、痕が残って次の仕事に影響が出るため、そのようなプレイを要求してくる客は全て断る。

客とキャストは一期一会、“NG 客”と認定されても特に支障はない。

しかし、NG 客の情報は業者同士で共有されているため、“援デリ巡り”をしたい人は気をつけたほうが良い。

7. 援デリ嬢の生態

援デリ業者における実働部隊は、キャストの女の子たちである。

そんな援デリ嬢には、一体どのような娘が多いのだろうか？

その点を援デリ経営者に質問した。

彼も最初は驚いたそうだが、本当に普通の女の子が援デリ業者として動いている。

街頭を歩いているとよく見かける、「可愛い子」が援デリ嬢だと知ったときには衝撃を覚えたそうだ(笑)

援デリのイメージ通り、風俗嬢も多く働いているのだが、見た目で“夜の女”だと分かる娘は少ない。

街中にいるような可愛い女の子が、援デリ嬢として働いているのだ。

援デリ業者からすれば、キャストは「出会い系を使っている素人の女の子」という設定のため、好都合と言えば好都合。

援デリ経営者は、『「なんでこの仕事してるんだろう？」と思うような普通の子が働いているのは不思議で仕方ない』と言う。

それでは、風俗嬢でもない“普通の女の子”が援デリ業者で働いている理由は何だろうか？

やはり1番多いのは、『お金が必要だから』という理由だ。

一般企業でOLとして働いていても、月に稼げる金額なんてたかが知れている。

だが風俗業界であれば金額に上限は無く、努力とやる気次第でいくらでも稼ぐことができる。

援デリ嬢のほとんどは、ホストに貢いでいる娘、バンドマンの追っかけをしている娘(バンギャ)、単純に遊ぶ金欲しさで働いている娘たちだ。

「金を必要な理由が明確にある女の子との仕事はしやすい」と援デリ経営者は言う。

なぜなら目的意識が強く、自分のためにしっかりと仕事をしてくれるからだ。

8. キャストが打ち子をするケース

稀にあるとのこと。

援デリ業者が打ち子とキャストを分けているのにも、ちゃんとした理由がある。

一番の理由は、「業務の効率化」だ。

個人で援助交際をしている場合は、セックスをしている間は携帯を操作できない。

だが打ち子の存在によって、女の子がホテルに入っている間、その間に他の客を確保すること

が可能になる。

打ち子はワガママな客を相手にしなくてはならず、精神的に苦になってしまう従業員もいる。

キャストとして「精神的・肉体的」に消費しているのにも関わらず、さらに客とメールのやり取りをするなど過酷もしいところ。

これは援デリ経営者が、実際にキャストと話をして分かったことだ。

ちなみに彼は、打ち子にチャレンジしようとした待機中のキャストにこんなことを言われたそうだ。

「あんたたちよくこんな糞な客と毎日何十通もメールできるよね！私は1時間やっただけでも発狂しそうになってるのに！まあそんな糞な客とセックスしてるけどね(笑)」

何とも笑えない言葉である。

最後に

【“援デリ”解体新書】はいかがだっただろうか？

援助交際デリバリーは、あくまでも需要と供給が結び付けるビジネス。

言うまでもなく需要はセックス、供給するのは援デリ嬢である。

援デリ経営者、打ち子、キャスト共に、全ての動力源は“金”だ。

罵倒と暴力が渦巻く混沌とした世界を想像していたが、実際には規律を重んじる集団行動によって組織が成り立っていた。

女の子を買う客、身体を売る女の子がいる限り、彼ら(彼女ら)のサイクルは繰り返されるのだ。

本レポートには、インタビューを敢行して得られた『援デリ業者の実態』が詰め込まれている。

彼ら(彼女ら)に対する理解を深めることができ、出会いを求める男性の知識に貢献していることを切に願う。

援デリ業者たちは今日もせわしなく、出会い系サイトを拠点として活動している。

願わくば、彼ら(彼女ら)が負のスパイラルから脱出できることを。

あなたが街中で見かけた可愛い女の子は、もしかすると援デリ嬢かもしれない…。

-著者名-

江川 岳光 (エガワ タケミツ)

-プロフィール-

大学を卒業後、就職をせずに怠惰な日常を過ごしているとき、親友の誘いでライターの道へ。

「役に立つ記事の執筆」がモットーのR-18 案件専門ライター。

女性との出会いに悩める多くの男性のために、有益な出会いノウハウを日々書き続けている。

常にあらゆる出会いの方法を求め続け、「分かりやすく使える」情報を提供することを目的としている。
